

# フランス高等教育進学制度改革の現状と課題

阿部和久, 久保沙織, 倉元直樹 (東北大学)

フランスの高等教育進学制度改革は、2018年1月に公表され、同年のリセ最終学年から適用された。以来5年が経過し、幾多の批判にさらされながらも、フランス社会にほぼ定着したかのように見える。そこで現在のフランス高等教育進学制度の状況について検証し、日本の大学入試制度を改善するための示唆を得たい。キーワード：パルクールシュップ、バカロレア、高大接続

## 1 問題と目的

本稿の目的は2018年から進められているフランス高等教育進学制度改革の現状と課題を明らかにすることである。

フランスの大学は選抜試験を行わないので、「バカロレアを取得すれば、どこの大学へも進学できる」と言われてきた。しかし、パルクールシュップ(Parcoursup)と呼ばれる高等教育事前登録システムが導入されてから、その言説をそのまま信じることは、以前にも増して困難になった。フランスの高校生たちは、バカロレアを取得した後、どのような道りを経て高等教育機関に進学しているのか明らかにする。

## 2 方法

パルクールシュップを所管する高等教育・研究・イノベーション省(以下、「高等教育省」と書く)及びバカロレアを所管する国民教育・青少年・文化省(以下、「国民教育省」と書く)の公式資料を中心に分析する。加えて、本稿の3人の著者が2023年1月にパリで実施した、高等教育省のパルクールシュップ担当官、国民教育省のバカロレア担当官、パリ13区にあるクロード・モネ高校の校長及びパリ・シテ大学理学部化学科のパルクールシュップ委員会委員への聞き取り調査に基づき、より実態に即した分析を加える。

## 3 先行研究

2018年の第1回パルクールシュップに関しては、豊田(2020)が次の4つの課題を挙げている。「選抜制度導入への賛否」「判定基準の不透明性」「スケジュール」「取得バカロレアの不均衡」である。

1点目に関しては、パルクールシュップでは大学に設置される審査委員会が出願書類の審査と序列化(classement)を行う時、選抜(sélection)という言葉は公式には使われないが、実質的には選抜に他ならないというのは、既に研究者たちの共通認識である(坂本, 2020)(田川, 2022a)(山崎, 2022)。それを評価するかしないかは立場によって異なる。

2点目、書類審査の基準の設定は各大学等にまかされており、非公開である。「ローカル・アルゴリズム」などと呼ばれ、批判を受けているという。2023年、透明性はどれほど高められたのか、検証する。

3点目、パルクールシュップ検索サイトが初めてオープンしたのは2018年1月15日である(2019年度以降は、前年の12月20日か21日)。そこから正規期間だけでも半年、追加募集期間がもう2ヶ月続く。バカロレアの受験準備と並行しながら取り組まなければならない。どう考えてもリセの生徒たちのストレスは大きいと思われる。その負担は軽減されたのか。

4点目、リセには普通リセ、技術リセ、職業リセの3種類がある。フランスには高校入試がないので、コレージュ(中学)から進学時に振り分けられる。3つのリセには明確な学力的ヒエラルキーが存在しており、これから見ていくように、高等教育へのアクセスには大きな不均衡が見られる。改善されたのだろうか。

一方、豊田が評価すべき点として挙げたのは「適合性の向上」である。結果が出るまで数年かかるというので、これまでの状況をデータで確認する。

高等教育進学制度改革に関する日本の研究を概観すると、当然ながら、具体を踏まえつつも研究者の視点からパルクールシュップを俯瞰的に捉えたものが多い。実際の場面で志願者や高等教育機関が、いつどういうことをしているのか、実務的に紹介したものは見当たらない。そこで本稿では、日本の大学入試担当者の立場に立ち、パルクールシュップの行程を、より具体的に検証する。その過程を通じて明らかになる課題について、日本の大学入試担当者たちと共有したい。

## 4. 高等教育進学制度改革の概要

### 4.1 パルクールシュップの定義

パルクールシュップとは、フランスの高等教育初年度に事前登録するためにウェブ上に設けられたナショナル・プラットフォームである。その最大の特徴は、単なる事前登録プラットフォームであることを超え、

(パルクールシュップでは出願できないものも含む) 全国の志願先の入試情報を得るための検索サイトという機能と、「進路選択支援ツール」(田川, 2022a: 60) という機能を合わせ持つ点にある。

## 4.2 高等教育機関の概要

フランスの高等教育機関は多岐に渡るため、パルクールシュップの対象となる主なものを紹介する。2021-2022年にリセの最終学年に在籍した生徒が、パルクールシュップを通じて、どのような formation (フォーメーションは大学の学部、学科、専攻に近いが、より広い対象を指すので、以下「教育課程」と訳す) に出願したか、その割合を記す。

1位は大学で、全志願者の69%が大学の学部・学科等に出願している。2位の BTS が47%で、3位の BUT が34%である (NF-SIES 2022-10)。

1位の大学は3年制である。法律上選抜試験は実施できない。高等教育機関に在籍者の約6割を占める。

2位の BTS は Brevet de Technicien Supérieur の略で、上級技術者免状と訳される。バカロレア取得後、リセに附設された STS (上級技術者養成課程) で2年学んで資格を取る。選抜制の教育課程だが、修学期間が短いこともあり、職業リセからの出願が多い。日本ではなじみが薄い、高校生の人気は非常に高い。

3位 BUT は Bachelor Universitaire de Technologie の略で、大学技術学士と訳される。大学の附設機関 IUT (工業技術学院) で3年学び資格を取る。2年制の資格 DUT が2021年に改変された。選抜制である。

つまり2022年は、全志願者の7割が大学に出願し、半数が BTS に、3分の1が BUT に出願している。

他によく知られた教育課程として CPGE がある。Classe Préparatoire de Grandes Écoles の略で、グランゼコール準備級と訳される。主要なリセに附設され、CPGE で2年学んでからグランゼコールを受験するのが一般的である。フランスのエリートが進む道で、選抜制を取る。2022年は全志願者の16%が出願した。

さらに商業専門学校や工業専門学校なども選抜制の高等教育機関である。パルクールシュップの書類審査だけでなく、面接を課すところもある。

## 4.3 パルクールシュップの行程

### 4.3.1 第1段階

パルクールシュップでは、志願者がスケジュール感を持って取り組むことが決定的に重要なため、ここからは2022-2023年の実際の日程に従いながら、具体的に見ていくことにする。

#### \* 2022年12月20日

教育課程の検索エンジンを備えた情報サイト

parcoursup.fr がオープンする。フランスは9月から新年度が始まるので、日本の高校3年生の7月20日に当たる。2022年は21,229の教育課程が掲載された。初年度の13,469から5年で約1.5倍になっている。それだけパルクールシュップが各高等教育機関から信頼を得てきたということの意味する。

志願者は目指す教育課程の情報をたくさん集めることになるが、本稿の文脈からして特に重要なのが attendu 「期待されるもの」である (阿部・倉元, 2022)。田川 (2022b) は全国的枠組みを全訳している。各教育課程が志願者にどんな力を求めているかが示されるので、自己点検が促される。誰もがどこへでも入学できるわけではないことをつきつけられる。

### 4.3.2 第2段階

#### \* 2022年1月18日 (パリ時間23時59分)

いよいよパルクールシュップのプラットフォームが開設される。この日から志願先の登録が可能となる。1人が登録できる教育課程の上限は10である。優先順位をつけずに登録する。パルクールシュップの前のシステム APB (Admission Post Bac : バカロレア取得後事前登録制度) の時は優先順位を付けて登録したので、新制度はこの点が決定的に異なる。

では、1人当たりどのくらいの志願先を登録しているか見てみよう。普通リセ、技術リセ、職業リセ別に、2022年のパルクールシュップ登録者数、出願者数 (1つ以上の志願先を登録した人の数)、後者が前者に占める割合、1人当たりの平均志願先登録数を示す。

表1 登録者数・出願者数等 (2022年)

	登録者	出願者	出願率	志願数
普通	372,077	367,379	98.7%	14.9
技術	138,141	133,765	96.8%	11.7
職業	116,435	104,899	90.1%	7.3
全体	626,653	606,043	96.7%	12.9

NF SIES 2022-10 から作成

当然ここで疑問が生じる。なぜ普通バカロレアと技術バカロレア取得者は、規定を超えて10以上の教育課程を志願先として登録しているのかという疑問である。この状況を理解するには、vouex (英語 wish の複数形。本稿では「志願」と訳す) の下位概念 sous-vouex (sous は「下」。本稿では仮に「サブ志願」と訳す) に関する知識が必要になる。志願だけでなくサブ志願を使うことで合計20まで登録することができる。複雑なので具定例に沿って説明する。

図1は、著者たちがパリ・シテ大学理学部化学科を

訪問した際、同科のパークールシュップ委員会委員が説明する際に用いたスライドの1枚である。2022年2月12日に開かれた「オープン・キャンパス」のプレゼンテーションに使われたものが援用された。

ParcoursSup 2022 <https://dossier.parcoursup.fr/Candidat/carte>

Parcours	Sélective	Places proposées (2022/2023)	Voeux formulés en 2021	Propositions d'admission en 2021
Min chimie	Non	64	2750	1070
Min biologie	Non	32	2017	310
LAS	Non	24	2504	325
DLPC	Oui	32	1936	611
DLFA	Oui	15	157	81

- Bassin de recrutement : essentiellement des candidats disposant d'un baccalauréat général avec de bons résultats en physique-chimie et en mathématiques
- Conditions pour la réussite : faire preuve de sérieux, de motivation, de régularité dans le travail, ainsi que de rigueur méthodologique.

図1 パリ・シテ大学理学部化学科の概要

説明によると、同大化学科は高校生の志願先として5つの教育課程を持っている。図1の黒い部分の左側 Parcours の下に続く5つである。

- ① Min chimie : 主専攻・副専攻ともに化学を学ぶコース (定員 64)
- ② Min biologie : 主専攻は化学で副専攻に生物学を学ぶコース (定員 32)
- ③ LAS : 2年次から健康学を「副専攻」とするコース (定員 24)。LASはLicence Accès Santéの略で、化学専攻を保持したまま医療、助産、歯学、薬学、理学療法に分かれる。入学は無選抜だが、1年次の成績を踏まえてそれぞれの「副専攻」に進級する。どこの大学でも人気が高い。志願先の順位で第4位、志願者の19%が登録している。
- ④ DLPC : 物理と化学の両方の学位を取得するコース (定員 32)。大学の教育課程は通常無選抜だが、ダブルディグリーの場合は選抜制になる。
- ⑤ DLFA : 2年次からドイツのBielefeld大学で学び、仏独の化学の学位を取得するコース (定員 15)。やはりダブルディグリーなので選抜制になる。

以上から、仮に①と②を志願先に登録すれば、10のうち2つの志願枠を使ったことになり、他に登録できるのは8となる。加えてパリ・ソルボンヌ大学の化学専攻などを登録すれば、志願数は3となり、志願枠の残りは7となる。最も一般的なケースである。

一方、パリ・シテ大学と同じ日に著者たちが訪問したクロード・モネ高校には、経済・商業一般系及び経済・社会学・歴史+応用数学系のCPGEが併設されている。そこで、パークールシュップのクロード・モネ高校のCPGEのページを開き、「同様の教育課程」のボタンをクリックすると、そこにはモネ高校を含む、

同じ系統のCPGEが92掲載されている。これら全てがサブ志願の対象となる。しかしこの中から20登録することはできない。サブ志願の登録数の上限は20だが、同系統の教育課程のサブ志願登録は10までとされているからだ。仮に経済系と文学系のCPGEを10ずつ選択すれば20登録することは可能である。実際は、選抜制のCPGEと無選抜の大学の教育課程を併記して10を超えているものと思われる。サブ志願を使えるのは、CPGEの他にBTSやBUTなど、選抜制を取る教育課程である。

では1人当たりどのくらい志願先を登録しているか、2022年の状況を教育課程別に示す。難関のCPGEは併願数が最も多いことが分かる。

表2 出願先の1人当たり登録数 (2022年)

	大学	CPGE	BTS	BUT
1つ	17%	1%	30%	2%
2つ	27%	18%	26%	28%
3つ	31%	33%	25%	37%
4つ	17%	29%	12%	22%
5以上	8%	19%	6%	12%

NF-SIES 2022-10 から作成

#### \* 2023年3月9日 (パリ時間23時59分)

志願先を登録する締切日である。以後志願先の追加や変更はできなくなる(削除はできる)。志願者はパークールシュップ上で、各志願先に向け、志望動機、学習歴、活動歴、将来の学習計画などを書き、志願先から求められた内容なども加え出願書類を完成させる。

ここで本稿の文脈から重要になるのは法学部と理系14分野で求められる「自己評価質問票」への回答である。志願する教育課程と自分は確かに適合性を有しているのか、ここで再び自己点検が求められる。この回答は審査の対象とはされないことになっている。

日本の調査書・推薦書に当たる将来カルテ (fishe Avenir) は、リセから志願先に直送される。

志願先の確定が、なぜ(出願書類の完成に先立ち)3月9日に設定されているかということ、普通バカロレアと技術バカロレアでは3月20日から専門科目の試験が始まるからである。2022年のパークールシュップで志願先を1つ以上登録した高校生は606,043人いたが、バカロレアを取得したのは573,507人である(NF-SIES2022-29)。早めに志願先を確定し、3月はバカロレアの準備に集中しなくてはならない。

#### \* 2023年4月6日 (パリ時間23時59分)

出願書類作成の締切日である。この後、出願書類は、

各志願先に送付される。前身の APB とパルクールシュップが大きく異なるのはここからである。無選抜の教育課程が定員を満たしていない場合に全入となるのは同じだが、志願者が定員を超えた場合は書類審査を経て合格者が決定される。2017年でAPBが廃止された大きな要因は、誰を合格させるかが非公開のアルゴリズムによって決定されていたこと、定員を超えた場合、最終的にはアルゴリズムの抽選によって合格者が決定されていたことに批判が集中したためである。

1月に聞き取り調査を行った高等教育省のパルクールシュップ担当官も、「パルクールシュップは志願者と志願先をつなぐためのマーケットプレイスのようなものであり、パルクールシュップが書類審査にかかわることはない」と強調していた。

そしてここからは、パリ・シテ大学の担当准教授から聞き取った内容に基づき、出願書類はどのように審査されるのか、具体的に説明する。

パリ・シテ大学理学部化学科（定員 167）では9人の教員によってパルクールシュップ委員会が組織される。9人の委員は毎年ほぼ同じメンバーだという。「手当は出るがボランティアのようなものだ」と話していた。いずれも研究職なので、通常の業務に加え、入試に関わる仕事をするのは日本の大学の専任教員と同じである。では委員会はどのような基準で書類審査を行うのか。それは図1がよく示唆しているの、試みに日本語に訳したのが図2である。

系列	選抜	定員 (2022/2023)	志願数 (2021)	合格提示数 (2021)
副専/化学	→	64	2750	1070
副専/生物	→	32	2017	310
健康学へ	→	24	2504	325
物理と化学	○	32	1936	611
仏と独	○	15	157	81

・募集枠：主に普通バカロレア取得者で、物理・化学と数学で良い成績を収めた者  
 ・成功の条件：厳格な方法論と同様、真面目な態度、やる気、動機を示せること

図2 パリ・シテ大学理学部化学科の概要（翻訳）

図の下部「募集枠」に続く記述を見ると、同科に入学するためには（資格としてはどのバカロレアも同じはずなのに）普通バカロレアの取得が望ましいと書かれている。さらに（個人の興味関心に応じて何でも選ぶことができるはずの）専門科目は、物理・化学と数学で好成績を収めてきてほしいと書かれている。

オープン・キャンパスでこの説明を聞いたリセの1年生たちは、恐らく次のように考えるだろう。

まず技術リセと職業リセの生徒たちは、自分たちの入学は、基本的に想定されていないことを知る。そし

て普通リセの生徒たちは、2年次に3科目まで選択できる専門科目に、物理・化学、数学を選び、あと1科目は何でもいいが、例えば生物・生態学などを選ぶとするだろう。3年次の専門科目は2科目しか選択できないので、物理・化学、数学を継続して選択しなくてはならない。なぜなら2年次で選択を終えた科目は、その成績がバカロレアの内申点となり係数8で処理されるが、3年次に選択する物理・化学、数学は、そのままバカロレアの試験科目となり、係数16ずつの合計32で計算されるからだ。2年後のバカロレア専門科目の試験（物理・化学には筆記試験に加え実験の試験も課される）に向け、しっかり勉強し、よい成績を収めてパルクールシュップに反映させ、パリ・シテ大学の化学科に出願しよう。

委員の説明によると、出願書類を審査する際、物理・化学と数学には他科目より高い係数をかけているということだった。そして「フランス語の成績は余り見ない」とも言っていた。2年次末に実施されるフランス語のバカロレア試験は係数10であるが、化学科では係数を下げているという意味だろう。このように書類審査の基準の設定は各教育課程にまかされている。

委員は「なぜ物理・化学、数学の成績を重視するかと言うと、そういう人の方が大学に入ってからうまくいくからだ」と話していた。日本の大学入試担当者からすれば、至極当然の状況が生まれたことになる。それまでの状況がどれだけ当然でなかったかは、委員の次の言葉から明らかである。「パルクールシュップになってよかったことは、それまでは入学者の総合点しかわからなかったのが、今は志願者の科目ごとの点数が分かるようになったことである。入学後の指導に生かせるようになった」。そして次のように付け加えた。「私たちはバカロレアで受験生を選抜できないので、入学した学生が2年次に上がる際に適性を判断している」。著者たちが、前稿から一貫して大学の1年次から2年次への進級率（フランスでは「通過率」という）を指標として重視している所以である。

2012年から2018年までの2年次進級率は、40.3%、39.7%、39.5%、40.8%、41.6%、41.0%、43.5%であるのに対し、パルクールシュップで入学した学年が2年次に進級した2019年から2021年までは、45.4%、53.5%、47.8%と、より高い数値を示している（NI-DEPP2020-16, 2022-10）。Covid-19の影響を受けた2020年は特異な年だったので、この年を除けば順調に伸びている。パルクールシュップの効果が出ている可能性が高い。委員の説明によれば、パリ・シテ大学化学科の2021

年の2年次進級率は55%ということだったので、国内平均より7ポイントほど高い。同科がパルクールシュップを好意的に受け止めている背景である。

なお、パリ・シテ大学化学科の進級をあきらめ、他大学の1年に移ってやり直したい学生はどうすればいいか。実はこの時もパルクールシュップを使う。2022年のリセ最終学年がパルクールシュップに志願登録をしたのは606,043人だが、志願登録した人の総数は936,480人である(NF-SIES2022-10)。驚くべき数字だが、フランスの大学の2年次進級率が50%に満たないことを思えば理解できる。本稿では、大学入試担当者の立場から検討しているので、前者を対象に記述している。

#### \* 2023年4月12日

パルクールシュップは5年目にして初めてこの日を迎えることができた。3週間前に受けたバカロレアの専門科目の試験結果に受験生がアクセスできる日である。志願者を得点に導くサイトはCycladesと名付けられている。もちろんパスワードを設定した本人しかアクセスすることはできない。

バカロレア改革によって専門科目の試験が、従来の6月から3月に前倒しされた時、日本で共通一次試験が導入された時と同じ議論が起こった。学習指導要領に示された教育内容を完全に学習しないまま大学入試を受けなければならないことに対する批判である。フランスは9月から新年度が始まるため、試験が3月に繰り上がると、リセ最終学年は半年しか授業を受けずに受験に臨むことになる。事情はより深刻だった。もちろん抗議が湧き上がる。しかし国民教育省は3月の実施を譲らなかつた。バカロレア最終試験の結果をパルクールシュップに反映させるには、これより遅い間に合わなくなるからである。

#### 4.3.3 第3段階 (合格通知メインフェーズ)

##### \* 2023年6月1日

この日の夕方から志願者に書類審査の結果が届き始める。改革によって通知は次の4種類となった。oui : 合格, oui-si : 条件付き合格 (si は英語の if) , en attente : 待機中, non : 不合格。

「合格」は選抜・無選抜の両方で通知される。ただし定められた期限内に確定しないと無効になる。幸運な志願者は6月1日に10の合格通知を受け取るかもしれない。その時は第1希望の「受諾確定」のボタンを押す。空いた9つの合格枠は、繰り上げ合格を待つ他の上位志願者にまわされる。

2022年の初日は6月2日だった。この日合格通知を1つ以上受け取った志願者(この時点ではバ

カロレアを取得していない)は57.8%で、受諾したのは全体の25.6%である(NF-SIES2022-29)。

合格通知と受諾に関するバカロレア取得者別のデータを表3に示す。横軸は次のA~Dである。

- A : 1人当たり合格通知を受け取った数の平均
- B : 最初の合格通知を受け取るまでに要した日数
- C : 初日に合格通知を受け取った人の割合
- D : 初日に合格を承諾した人の割合

表3 合格通知関連事項 (2022年)

	A	B	C	D
普通	6.1件	3.1日	69.3%	30.7%
技術	4.2件	5.8日	52.7%	22.6%
職業	2.9件	6.5日	48.9%	21.3%
全体	5.3件	4.2日	63.0%	27.7%

NF SIES 2022-29 から作成

職業バカロレアを取得して高等教育機関に進むことが、いかに困難な道であるかをよく示す。

通知の2番目「条件付き合格」は2018年の改革で新たに追加された項目である。志願先が準備する補習(補習授業や個別指導, 4年卒業コースなど)への参加を了承すれば合格できる。無選抜の教育課程でのみ実施される。ただし全ての高等教育機関が補習を設定しているわけではない。学内体制の整備や予算を要するからである。

通知の3番目「待機中」は選抜・無選抜のどちらでも発生する。全部が待機中であれば、順番が繰り上がるのを待つしかない。悩ましいのは第1希望が待機中で第2希望が合格した場合だろう。しかしこの心配は「待機しながら受諾」のボタンを押すことで解決できる。第2希望の合格を保持しながら第1希望の繰り上げ合格を待つことができるからだ。ただし「合格は常に1つのみ」という原則があるので、第1希望と第3希望が合格していても、両方の合格を保持することはできない。

現在は自分が待機リストの何番目にいるか分かるようになった。どれだけ待機すればいいか、前年の最終合格者の順番を見て推測する。図1によれば、パリ・シテ大学の化学科は次の通りである。

- ① 志願者 2,750人 → 最終合格者 1,070番目
- ② 志願者 2,017人 → 最終合格者 310番目
- ③ 志願者 2,504人 → 最終合格者 325番目
- ④ 志願者 1,936人 → 最終合格者 611番目
- ⑤ 志願者 157人 → 最終合格者 81番目

メインストリームである化学専攻・化学副専攻のコースは、定員 62 人を確保するのに 1,070 人を要している。CPGE や他大学との競合が激しく、上位者が多く抜けていったことがうかがえる。

だが推測は推測であり、本年度も同じことが起こるとは限らない。微妙な位置に付けた志願者は非常にストレスの多い毎日を送ることになるだろう<sup>2)</sup>。こんなことで 6 月 15 日の哲学の試験に真剣に臨めるのか心配になる。2022 年は、表 4 に示すように、哲学の試験当日、まだ 4 割の行く先が決まっていなかった。縦軸の「通知率」は合格の知らせが 1 つ以上通知された人の割合、「受諾率」はその中の 1 つを受け入れた人の割合を示す。

表 4 合格通知率と受諾率 (2022 年前半)

	6/2	6/15	7/1	7/15
通知率	57.8%	85.6%	89.4%	90.8%
受諾率	25.6%	59.4%	70.1%	74.5%

NF SIES 2022-29 から作成

最後の「不合格」通知は、無選抜では発生せず、選抜制の志願者のみ受け取る。最速の場合は 6 月 1 日に 20 の不合格通知を受け取る可能性がある。不合格通知しか受けられなかった人は、所属するリセや情報・進路指導センターに相談し、15 日から始まる次の段階の準備を始める。

#### 4.3.4 第 4 段階 (補完フェーズ)

\*2023 年 6 月 15 日

パルクールシュップは、この日から「補完フェーズ」と呼ばれる新たな段階に入る。まだ定員を充足していない教育課程が対象になる。全部不合格だった人、全部待機中の人、出願しなかった人、登録しなかった人などが、この日から改めて応募可能となる。教育課程を 10 まで選び、志願先として登録し出願する。2021 年は補完フェーズだけで 82,000 人ほどが合格したと Le Figaro Etudiant 及び TF1 Info が報道している (2022 年 6 月 22 日)。

\*2023 年 7 月 1 日

補完フェーズに参加しても再び不合格通知を受け取った志願者は、この日から CAES (高等教育アクセス委員会) に接触することができる。パルクールシュップには、その場合に備え CAES に照会をかけるボタンが準備されている。全ての志願者は、この時 CAES だけが開くことのできる「私の好み (希望) と他のプロジェクト (Ma préférence et autres projets)」という必須項目を

記入して出願している。なぜこの項目の記入が大切かというところ、パルクールシュップは優先順位を付けずに出願するため、志願先一覧だけでは相談者の「好み (希望)」が分からないからである。CAES は相談を受けた志願者の出願書類を精査し、できるだけ相談者の「好み (希望)」に沿った教育課程を探し出し、本人とメール等で協議しながら新しい道を探る。

\*2023 年 9 月 12 日

パルクールシュップ 2022-2023 が全て終了する日である。ところが、行き先が決まっていない志願者がまだ多く残されている可能性がある。昨年の最終日である 2022 年 9 月 17 日までの合格通知率と受諾率は次のようになっている。合格通知を受け取っていないながら受諾しなかった志願者が全体の 12.9%もいた。

表 5 合格通知率と受諾率 (2022 年後半)

	8/1	8/15	9/1	9/17
通知率	93.0%	93.1%	94.0%	94.8%
受諾率	77.6%	77.9%	80.1%	81.9%

NF SIES 2022-29 から作成

## 6 考察

パルクールシュップは、2018 年の導入直後から、偽装選抜だとか、優先順位をつけずに志願先を登録するのは混乱の元だとか、多くの批判にさらされてきた。しかしデジタルツールという特性により、Covid-19 の影響をあまり受けずに進学業務を進められるというメリットも味方し、次第に評価を高めていった。元々ツールなので、実施しながら毎年改良を加え、徐々に使い勝手がよくなってきたことも大きい。

では豊田 (2020) が挙げた課題について確認する。まず選抜制度導入への賛否については、大学の 2 年次進級率の改善可能性を見る限り、評価すべきと思われる。従来の居住地優先 (これはまだ生きている) や抽選よりも、実質的な選抜の方が教育的なのではないか。

2 点目の各教育課程の判定基準については、現在も非公開となっている。しかしパリ・シテ大学のオープンキャンパスのスライドが示すように、具体的な係数までは分からないものの、志願者が何をどう努力すればいいかは伝わってくる。透明性は増しているのではないか。

3 点目のスケジュールの問題は、2022-2023 年でも十分きつuitと思われる。バカロレアの準備が疎かになりかねないような気がする。しかし大局的に見ると、

この心配は杞憂に過ぎない可能性がある。なぜなら、近年のバカロレアの合格率は3年続けて90%を超えている。バカロレアはほとんど落ちない試験に変貌を遂げていた。「合格したら」と「落ちないので」では、制度設計が根本から異なる。

4点目の、取得バカロレアの不均衡については、見てきた通りである。構造的なものなので、1人パルクールシュップに責任を迫らせることはできないだろう。

日本の大学入試担当者の1人として、この調査研究を通じ、大きな示唆を得たのは、システム上に置かれたセーフティネットの数々である。バカロレアに合格して、高等教育へのパスポートを手にした若者を、1人も残さず高等教育機関に迎え入れたい、高等教育省・国民教育省のそういう意志がよく伝わってきた。

## 注

- 1) 対応者は、高等教育省：ベルトラン・リフォル氏（高等教育・研究省高等教育進路指導担当責任者）、タン・トリュク・ヴェ氏（同アジアオセアニア圏担当者）。国民教育省：マリー・エレヌ・ブラウン氏（バカロレア試験運営委員長）、ブルーノ・ガラン氏（同担当者）。クロード・モネ高校：ミシェル・セルヴォーニ氏（校長）、バプティスト・デュマン氏（バリアカデミー担当者）。パリ・シテ大学理学部化学科：タン・ハー・ドゥオン氏（助教授）である。
- 2) 毎日返答を確認して応答するストレスから志願者を解放するため、自動返信システムがオプションで導入されている。自分のパソコンや携帯電話に、志願リストの優先順位を設定し、返答の仕方を入力すれば、自動的に応答する。よって返答に煩わされることはなくなる。実際どのくらい機能しているのは未確認である。

## 謝辞

本研究はJSPS 科研費 JP20K20421 の助成による研究成果の一環である。

## 参考文献

阿部和久・倉元直樹 (2023). 「バカロレア改革の現状と課題— Covid-19 対応の問題点—」 『大学入試研究ジャーナル』 **33**, 70–77.

Le Figaro Etudiant [https://etudiant.lefigaro.fr/article/parcoursup-la-phase-d-admission-complementaire-commence-ce-jeudi\\_8ca56852-f232-11ec-b7e6-9947adf1f759/](https://etudiant.lefigaro.fr/article/parcoursup-la-phase-d-admission-complementaire-commence-ce-jeudi_8ca56852-f232-11ec-b7e6-9947adf1f759/) (2023年4月27日).

MESRI(2022) Note Flash du SIES 22-10.

MESRI(2022) Note Flash du SIES 22-29.

MENJ(2020) Note d'Information de la DEPP 20-16.

MENJ(2022) Note d'Information de la DEPP 22-10.

坂本尚志 (2020). 「なぜバカロレア改革は混乱を引き起こしているのか—平等と選抜のフランス的ジレンマ—」 伊藤美歩子編『変動する大学入試—資格か選抜か—ヨーロッパと日本—』大修館書店, 123–142.

田川千尋 (2021). 「高校から高等教育への進路選択システム— 高大の接続支援と公平性に関する考察—」 園山大祐編著『フランスの高等教育改革と進路選択—学歴社会の「勝敗」はどのように生まれるか—』, 105–122.

田川千尋 (2022a). 「フランスの大学入試—バカロレア試験と高等教育登録システム—」 大阪大学高等教育・入試研究開発センター編『未来志向の大学入試デザイン論』, 93–105.

田川千尋 (2022b). 「バカロレア試験で測られる能力をどのように高等教育へ繋ぐか—『分野別期待される力の全国枠組み』の検討から—」 細尾萌子編『大衆教育社会におけるフランスの高大接続』 広島大学高等教育研究叢書 **164**, 広島大学高等教育研究開発センター, 65–84.

TF1 Info <https://www.tf1info.fr/education/parcoursup-comment-se-passe-la-phase-d-admission-complementaire-qui-commence-ce-jeudi-2224017.html> (2023年4月27日).

豊田透 (2020). 「フランスにおける高等教育進学制度の課題と改革」, 『レファレンス 831号』 15–16.

山崎晶子 (2022). 『現代フランスのエリート形成』 青弓社.